

北灘東小学校で河川環境学習を開催しました。

北灘東小学校3・4年生の児童を対象に、「川の水をきれいにするための取り組み」について学習した後、身近な川の水や生活排水の水質検査、透視度検査を体験し、水をきれいにする事の大切さを学びました。

【実施概要】

日 時：平成25年6月19日（水）10：30～12：00

場 所：北灘東小学校、粟田川

参加者：北灘東小学校 3・4年生 10名

徳島県 河川振興課 3名

内 容：1 川の水をきれいにするための取り組み
2 水の汚れの原因（水質実験：透視度、CODパックテスト）

感 想：授業を受けたことによって、川や水の大変さなどが分かりました。粟田川を大事にして、もっときれいな川にしていきたい。

【活動状況】

○「川の水をきれいにするための取り組み」

川の役割や川と人の関わりなど、川に関する基本的なことを学びました。また、川をきれいにするための取り組みやその大切さを学びました。



○「水の汚れの原因」水質実験（CODパックテスト、透視度測定）

はじめに、水質実験に使う川の水として、身近にある粟田川に行き、採水を行いました。次に、持ち帰った粟田川の水と水道水の透視度を測定しました。測定結果は、水道水に比べ、粟田川の水は透視度が高いことがわかりました。次にCOD（化学的酸素要求量）をパックテストにより測定しました。粟田川と水道水のCODを測定した結果、水道水に比べ、粟田川のほうがCODが高いことがわかりました。また、川の汚れの原因となる生活排水として、身近にある食品（牛乳、ジュース、しょうゆ、スープ、米のとぎ汁、日本酒、焼き肉のたれの全7種類）のCODを測定しました。測定した結果、500mlの水に2～3滴程度混ぜたものでも5～50mg/lと高い値を示す結果になりました。このことから、残した食べ物を安易に流しや川に捨てることによって川がどれほど汚れてしまうかを知り、水質浄化のために自分達ができることを学びました。

